

行歯会だより(第12号)

2006年5月(毎月発行)

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

日本歯科医師会・大久保会長と会談

さる5月17日(水)、石上会長ほか2名(中村理事、安藤事務局長)が日本歯科医師会を表敬訪問し、大久保満男会長、池主憲夫常務理事、石塚地域保健課長、伊丹地域保健課長補佐と会談を行いました。

会談の席上、大久保会長より、

・行歯会の主旨については十分理解かつ期待しているので今後連携を深めていく必要性を感じている

・行歯会の現在の加入率(現在3割強)が高まると、他者に連携の必要性を説く際に説得力が増すので努力してほしい

という建設的なコメントをいただきました。

また、同席された池主常務理事(地域保健担当)より、情報収集や人的交流の面における行歯会と日歯の連携に関する踏み込んだ発言もありました。

今回の会談を通じ、日本歯科医師会に対する敷居が(事前に予想はしていたものの)随分低くなったことを改めて実感しました。今回の会談で交わされた言葉は決して外交辞令的なものではなく、発言の1つ1つが行歯会の今後の活動指針にとって非常に大きな意味を持っていると考えられます。6月3日(土)には、行歯会役員と日本歯科医師会、8020推進財団の意見交換会が開催される予定になっておりますが、さらに踏み込んだ連携・協働に発展することが大いに期待されるところで。
(安藤雄一 記)



日歯・大久保会長(左)と行歯会・石上会長(右)

2006.5.17(水) 日本歯科医師会館にて

お知らせ : 6月3日(土)に行歯会役員と日本歯科医師会、8020推進財団の意見交換会が開催されます。これにあわせて、はじめての行歯会理事会も予定されています。これについても来月号でレポートしたいと思います。お楽しみに!

『地域紹介 わたしの街自慢!』

「北海道、北東北3県・北のくに健康づくり推進会議、そして……」

北海道保健福祉部保健医療局健康推進課

秋野 憲一



行歯会のみなさん、こんにちは。

今年の4月から、厚生労働省に出向された佐々木健先生に代わり、北海道地区の担当理事になりました北海道保健福祉部の秋野と申します。

理事に代わった早々、静岡県の中村先生から地方紹介を頼まれました、理事を引き受けてしまった手前、断ることもできず、今、岩手県花巻空港で札幌行き飛行機の待ち時間に、この原稿を執筆しています。

さて、北海道の私が何故、岩手県にいるかと申しますと、旅行で温泉に浸かりにきたわけではなく、ちゃんと仕事でして、平成14年度4道県知事サミットの合意に基づき、北海道、青森県、秋田県、岩手県が参加する北のくに健康づくり推進会議というものを立ち上げました。

北のくに健康づくり推進会議ホームページアドレス

<http://www.pref.hokkaido.jp/hfukusi/hf-thken/kk/top.htm>



その会議の専門部会として、自殺予防対策検討部会、スポーツによる健康づくり検討部会、健康情報ネットワーク部会とともに、歯科保健対策検討部会が設置されました。4道県が共同して、様々な歯科保健事業に取り組んでいるというわけです。

都道府県庁にお勤めの方には、北のくに健康づくり推進会議歯科保健対策部会の報告書が送付されていることと思います。

事業の内容としては、4道県共同による市町村・都道府県歯科保健対策実態調査、食生活改善推進員等を対象にした8020運動推進員育成研修、歯により料理のレシピ集づくりなどをこれまでに実施しました。

さらに平成18年度は、4道県が取り組むメリットを活かし、県境を超えた障がい者歯科医療の連携に取り組むこととしています。

個々の事業は、行歯会の皆様の先進県の事業を参考にさせていただいたものが多いのですが、4道県が共同で取り組むというところに、予想していなかった意外なメリットを経験できました。

まず、互いの県が良い意味で競い合う効果が生まれたことです。

例えば、これまで、北海道では食生活改善推進協議会と連携した歯科保健事業は、恥ずかしながら全く取り組んでおりませんでした。

しかし、この分野は、岩手県のお家芸で、特に田沢光正先生の南部せんべいと8020運動による地場産品を活用した歯科保健活動は、い

まや伝説ともいえる先進事例です。岩手県の食生活改善推進協議会の方々は、歯に良い料理のレシピ集の作成等、手慣れたもので、協議会の年間事業計画には歯科保健活動は定例の活動として組み込まれていたのです。



4道県の食生活改善推進協議会の役員を参集して実施した共同研修会では、岩手県の事例発表に刺激を受けて、北海道の食生活改善推進協議会の会長も、岩手県に負けていられない!とばかりに歯科保健活動に力を入れてくれるようになり、今では、歯科保健に関する講演等があれば会員を大動員してくれるようになりました。

そして、何より素晴らしい仲間に出会えた事です。

この共同事業が始まるまでは、津軽海峡は深くて遠く、東北の先生と一緒に仕事をするなんて考えられませんでした。岩手県の森谷俊樹先生、青森県の村上明継先生、保健師の高橋さんと一緒に取り組むことができました。

特に、岩手県の森谷先生の強いリーダーシップのもと、共同研修会やレシピ集作成等、歯科保健部会が最も実績を上げているとして、他の部会から高い評価を得ることができました。(森谷先生、いつもおんぶにだっこでごめんなさい!)

それと、もうお一人、秋田県庁の臼井和弘先生のことを忘れることはできません。

皆様、ご承知かと思いますが、平成17年12月25日、山形県で起きた特急いなほ脱線転覆事故により、あまりにも早い生涯を閉じられた先生です。

秋田県のお口ぶくぶく大作戦の推進のため、県議会の理解を得るべく、県議視察団受け入れのため、新潟県への出張の途中であったと聞いています。

臼井先生は、平成15年度から、厚生労働省から秋田県庁に出向という形で、この4道県共同事業にも参加されるようになりました。秋田県庁にいらっしゃる前は、厚労省で歯科用薬品の認可等を担当されるセクションにいたとのことで、歯科保健行政を担当するのは、秋田県庁がはじめてと仰っていました。

臼井先生と最初にお会いしたとき、臼井先生は、私よりも3歳ぐらい年上であったにもかかわらず、「歯科保健では、秋野先生の方が私よ

りも先輩ですから、色々教えてください！」と言われて、年上の、それも厚労省の先生からそんなことを言われて、随分恐縮したことを覚えています。

それ以来、臼井先生には大変親しくさせていただき、青森県の浅虫温泉で温泉に浸かりながら、深夜まで時間を忘れて、都道府県の歯科保健事業の方向性について語り合ったり、札幌ススキノでラーメンを食べながら、フッ素洗口の展開や歯科医師会との協働について話し合ったりしたことが、つい先日のように思い出されます。

秋田県のフッ素洗口の普及では、猛烈な反対運動に遭い、県議会やマスコミから叩かれても、決して感情的に宥むことなく、粘り強く話し合いを続けていらっしゃいました。

いつも物言いが柔らかく、謙遜で、決して偉ぶったりせず、秋田県の歯科保健事業の充実のため、県内を走り回る本当にひたむきで一生懸命な素晴らしい先生でした。

秋田県では、このたび、歯科保健事業に尽力した市町村等を表彰する臼井記念歯科保健功労賞(仮称)を創設するとのことです。

行政では極めて珍しい個人の名を冠した功労賞の創設は、秋田県庁の方々にとっても、臼井先生の功績とお人柄を忍ばれてのことと思います。

でも、そんな賞ができるより、何より臼井先生には生きていて欲しかった！まだまだ、これからの歯科保健行政について話し合いたかった！これからの日本の歯科保健行政のために活躍して欲しかった！

臼井先生が、行政歯科に取り組みられたのは秋田県庁にいたわずか2年半ほどですので、直接の面識がない方も多いと思います。しかし、行歯会の皆さんにも少しでも臼井和弘先生のことを記憶に留めておいて欲しいと願い、これを書いています。

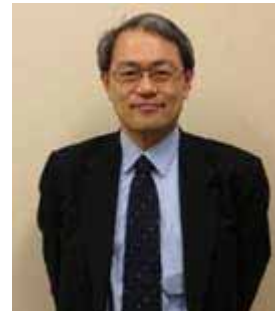
最後に臼井先生が生前、私に仰っていたことを紹介したいと思います。

「歯科保健行政は、事務職の方や保健師さんや歯科医師会の先生方と一緒に新しいものを創り出せるので、すごく面白いですよ。その上、県の住民のみなさんの生活のために働ける、こんなやりがいのある仕事はないじゃないですか。」

理事のひとり言 (その11)

東京都福祉保健局多摩立川保健所

矢澤 正人



行歯会の皆さん、こんにちは。東京都多摩立川保健所の矢澤です。東京ブロックの理事を微力ながら務めさせていただいています。全国の行政に勤務する歯科医師、歯科衛生士の方々、今後ともよろしくお願ひします。

さて、このコーナーをお借りして、今年の夏ゼミ(地域歯科保健研究会の略称:毎年、地域歯科保健に関心を持つ歯科関係者が自主的に集って行っている勉強会)について、ちょっとPRさせていただきます。今年の夏ゼミは、“平塚”を舞台に行われます。日時は、平成 18 年 7 月 28 日(プレゼミ:夜のみ)、29 日、30 日(本番)です。今回の夏ゼミは、神奈川県及び関東各県の連合体が、事務局となって行います。

テーマは、『介護新時代の地域歯科保健』です。実行委員長は、神奈川県小田原保健福祉事務所の関根佳代子先生で、私たち関東一円の行政の歯科専門職、大学関係者、歯科医師会関係者、現場で活躍する歯科衛生士の方々等々で、現在、鋭意準備中です。

内容については、改正介護保険法における介護予防をキーワード

にしながらも、再度、地域づくりなど、今後の地域歯科保健のあり方も視野に入れた、夏ゼミ流・介護予防・料理法ができたなら事務局一同、智慧を振り絞っております。特に、今回の特徴は、平塚市というご当地を舞台にし、その地域にプラスになるような展開を試みたこと。また、介護予防は、他課の仕事で、まったく関わらせてもらえないというような方も含め、みんなで介護予防というツールで歯科保健の環境整備ができないか、というようなことを考えてみたいというのが、現在進行中の企画案です。乞うご期待。(申し込みの詳細については、本行歯会だよりに掲載させていただいています。)

とにかく、今、歯科界が置かれている閉塞的状況を打破すべく、新しい地域歯科保健のエネルギーを自分たちで、作り上げていこうという、このゼミに皆さん、奮ってご参加ください。

以上、夏ゼミについての情報提供をさせていただきましたが、今後とも、行歯会という、貴重なツールこそ、皆で、大活用して、大いに住民のためになる歯科保健・医療を創造していこうではありませんか。

シリーズ「厚生統計」紹介 住民(国民)の歯科保健状況を示す統計について(その3)

青山 旬(栃木県立衛生福祉大学校歯科技術学部)

住民の歯科保健状況を示す統計を取り上げてきました。平成18年5月に平成16年国民健康・栄養調査の概要が発表されました。公表された結果には健康日本21・歯の健康の中間評価を示す指標が入っているので、すでにチェックされた方も多いと思います。その結果を次ページの表に示しました。

国民健康・栄養調査について

国民健康・栄養調査は毎年実施されます。この調査は、1)身体状況調査、2)栄養摂取状況調査、3)生活習慣調査からなっています。1)については17年度は歯科疾患実態調査が同時に実施されましたのでご存じの方も多いでしょう。3)生活習慣調査は健康日本21の食生活、身体活動、運動、休養(睡眠)、飲酒、喫煙、歯の健康等に関する調査が行われています。また、毎年テーマが決められて実施され、15年は喫煙が、16年は歯の健康がテーマとなっています。

生活習慣調査は、留め置きによる自記式質問紙調査として実施されています。対象地区は平成16年国民生活基礎調査の対象地区から層化無作為抽出した300単位区の世帯および世帯員を対象としましたが、平成16年10月に起こった中越地震の影響で2単位区では調査ができない状況であったと報告されています。回収状況は3つの調査でもっともよく、9,345名が分析対象者数となっています。

歯科疾患実態調査と同じ項目

6.2「フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の増加」、6.7「進行した歯周炎の減少」、6.11「80歳で20歯以上、60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の増加」に関する項目は、歯科疾患実態調査の問診と歯科医師による歯科健康診査によって評価されてきました。今回の調査でも評価されていますが、実態調査の結果が公表されれば更新されるのではないかと思います。6.11については、方法論的に検討されておりアンケートと健康診査での違いは少ないと思われる。6.7の歯周炎については、いずれかの症状を有する者で示されたので、若干の違いがでるかもしれません。6.2のフッ化物歯面塗布の経験は、「問：お子さんが、むし歯予防のためにに行っている又は行ったことがある項目がありますか。」の項目3に「フッ化物を歯に塗布したことがある」とあり、この項目を選択した者の割合です。問診と複数項目からの選択では、結果に違いが出ることも考えられます。平成5年、11年の実態調査結果より低い値が示されましたが、減少と言い切れないと思われ、17年の実態調査結果を待つ方が良いのではないのでしょうか？

保健福祉動向調査にあった項目

行歯会だより6,8号で述べましたが、従来保健福祉動向調査で行われた調査項目が国民健康・栄養調査で取り上

げられました。特に今回の(16年度調査)では、保健福祉動向調査(歯科保健)の調査内容が、多く取り入れられています。6.6「個別的な歯口清掃指導を受ける人の増加」、6.8「歯間部清掃用器具の使用の増加」、6.13「定期的な歯科健診の受診者の増加」が該当します。6.6では歯磨きの個人指導を受けた割合16.5%(15-24歳)、6.8では歯間部清掃用器具の使用率39.0%(35-44歳)と40.8%(45-54歳)、6.13ではこの1年間に歯科健康診査を受けた者の割合35.7%(55-64歳)といずれも改善が進んでいます。特に6.13では目標値を上回っていました。これらの質問は、調査方法も質問もあまり違いがなく、比較のできる調査と考えられ、改善が見られると思われ。前回(行歯会だより8号)で紹介した歯間部清掃用器具の質問は、今回以前の保健福祉動向調査と同じ聞き方で改善が見られ、聞き方が異なった15年度調査より高くなっており、質問肢の影響が大きいことが認められました。なお、保健福祉動向調査は、平成15年度調査で廃止されています。

新たな調査項目

6.3「間食として甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の減少」、6.5「フッ化物配合歯磨剤の使用の増加」、6.12「定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加」は、新規の調査項目です。6.3 間食の摂取が1日3回以上の者の割合は1-5歳で22.6%、1歳半~2歳未満で20.5%となり、目標値が設定されるでしょう。6.5では小学生(児童)のフッ化物配合歯磨剤使用率は58.1%となっていますが、都道府県の一部を対象とした2つの調査(その後の実績値参照)ではそれぞれ78.3%と88.2%であり、低くなっています。これも質問の方法が6.2のフッ化物歯面塗布と同様「問：お子さんが、むし歯予防のためにに行っている又は行ったことがある項目がありますか。」の項目1「フッ化物配合の歯磨剤を使用している」に解答した者で、使用している歯磨剤の商品名を記載する他の調査に比べて低くなるのが十分考えられます。6.12は「あなたは、この1年間に歯石の除去や歯面の清掃を受けましたか」とシンプルに聞いており、参考値より高い値はそのまま受け入れられたでしょう(参考値より高くなったとは言えないですが。)

以上の様に、健康日本21・歯の健康の中間評価が今回の結果よりできると思われます。改善が見られる項目がいくつか見られ歯科保健の推進がなされていると思われました。質問が改善されてきましたが、一部気になるケースも見受けられます。これらの点は最終評価に向けて、整理されることを望みます。なお、6.9「喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及、歯周病」は15年の国民健康・栄養調査の結果を掲載しました。

「健康日本21」歯の健康における目標値に対する暫定直近実績値
 策定時の現状地又は
 ベースライン調査
 等
 参考値

分野	目標	暫定直近実績値	その調査年	調査年	暫定直近実績値	調査年
幼児期のう蝕予防						
6.1	う蝕のない幼児の増加	全国平均 59.5%	H10年度 3歳児 歯科健康診査結 果	3歳児歯科健康診査結 果	全国 70.2%	H16年度 3歳児歯科健康診 査結果
6.2	フッ化物歯面塗布を受けたこと のある幼児の増加	全国平均 39.6%	H5年歯科疾患実 態調査	H11年歯科疾患実態 調査	全国 37.8%	H16年国民健康・ 栄養調査
6.3	間食として甘味食品・飲料を頻 回飲食する習慣のある幼児の減 少	(参考値)全国 平均 29.9%	H3年 久保田らによる 調査	調査中	全国 22.6% (1-5歳) 全国 (1歳半- 2歳未満) 20.5%	H16年国民健康・ 栄養調査
学齢期のう蝕予防						
6.4	一人平均う蝕数の減少	一人平均う蝕 数(12歳) 全国平均 2.9歯	H11年学校保健 統計調査	学校保健統計調査	1.82歯	H17年 学校保健統計調 査
6.5	フッ化物配合歯磨剤の使用の増 加	(参考値) 児童のフッ化 物配合歯磨剤 使用率:全国 平均 45.6%	H3年 荒川らによ る調査	H15年 日本口腔衛生 学会フッ化物物応用委員 会調査 H16年 歯磨き習慣に 関するアンケート調査 (8020推進財団)	全国(1-14歳) 52.5% (6-11歳) 58.1% (12-14歳) 53.0%	H16年国民健康・ 栄養調査
6.6	個別的な歯口清掃指導を受ける 人の増加	(参考値)全国 平均 12.8%	H5年保健福祉動 向調査	H11年保健福祉動向 調査	16.5%	H16年国民健康・ 栄養調査
成人期の歯周病予防						
6.7	進行した歯周炎の減少	(参考値)40歳 32.0% (参考値)50歳 46.9%	H9～H10年富士 宮市モデル事業 報告	H11年歯科疾患実態 調査	全国 23.7% 全国 36.8%	H16年国民健康・ 栄養調査
6.8	歯間部清掃器具の使用の増 加	40歳(35～44 歳) 19.3% 50歳(45～54 歳) 17.8%	H5年保健福祉動 向調査	H11年保健福祉動向 調査	全国 39.0% 全国 40.8%	H16年国民健康・ 栄養調査
6.9	喫煙が及ぼす健康影響について の十分な知識の普及 4.1 た ばこ参照	全国平均 27.3%	H10 喫煙と健康 問題に関する実 態調査	調査中	全国 35.9%	H15年国民健康・ 栄養調査
6.10 禁煙支援プログラムの普及 4.4 たばこ参照 歯の喪失防止						
6.11	80歳で20歯以上、60歳で24歯以 上の自分の歯を有する人の増加	80歳(75～84 歳)20歯以上 11.5% 60歳(55～64 歳)24歯以上 44.1%	H5年歯科疾患実 態調査	H11年歯科疾患実態 調査	全国 23.0% 全国 54.3%	H16年国民健康・ 栄養調査
6.12	定期的な歯石除去や歯面清掃 を受ける人の増加	(参考値)60歳 (55～64歳) 15.9%	H4年寝屋川市調 査	調査中	全国 60歳 (55～64歳) 43.2%	H16年国民健康・ 栄養調査
6.13	定期的な歯科検診の受診者の 増加	60歳(55～64 歳) 16.4%	H5年保健福祉動 向調査	H11年保健福祉動向 調査	全国 35.7%	H16年国民健康・ 栄養調査

お知らせ

・夏ゼミ New-

テーマ「介護新時代の地域歯科保健」

期日：H18.7.28(金) 29(土) 30(日)

会場：神奈川県平塚市

<http://natuzemi06.hp.infoseek.co.jp/>

・国立保健医療科学院:

(1) 臨床研修指導歯科医(保健所)養成コース

期日：H18.8.23日(水)～24(木)

場所：国立保健医療科学院

現在、申し込み受付中

(2) 歯科衛生士研修

期日：H19.1.15(月)～1.26(金)

場所：国立保健医療科学院

定員：20名

申込：H18.10.2(月)～H18.10.31(火)までに国立保健医療科学院へ郵送

<http://www.niph.go.jp/entrance/h18/418sikae.html>

・日F会議(NPO法人・日本むし歯予防フッ素推進会議)

第30回記念むし歯予防全国大会

期日：H18.10.28(土)

場所：東京歯科大学水道橋病院(血脇ホール)

内容：基調講演 E.Newbrun

シンポジウム(仮題)「フッロリデーション実現への課題」

・第55回日本口腔衛生学会

期日：H18.10.6(金) 7(土) 8(日)

会場：千里ライフサイエンスセンター

大阪府豊中市新千里東町1-4-2

<http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

・日本公衆衛生学会

期日：H18.10.25(水)～27(金)

会場：富山県民会館 〒930-0006 富山県新総曲輪4番18号

富山国際会議場 〒930-0084 富山県大手町1番2号

<http://www.jsph.jp/>

・日本健康教育学会

期日：H18.6.23(金)24(土)

会場：東京大学医学部鉄門記念講堂 およびセミナー室(医学部研究棟14F, 13F)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~health15/main.htm>

・第27回全国歯科保健大会

期日：H18.11.11(土)

会場：長崎ブリックホール